

令和6年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前： 湊川 咲喜

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1, 000字程度)

8/18(日)～8/24(土)に南昌市青少年訪問団派遣事業の団員として、中国南昌市・景德鎮市を訪れました。岡山空港→上海国際空港→国内線で南昌空港と移動し降り立った南昌市は、近代的な高層ビルが立ち並び、日本とは趣の違う都会的な大都市でした。(夜遅くの到着だったため、夜景が綺麗でした。)

2日目の交流大会では、私たち日本はダンス(高松市)やソーラン節(瀬戸市)、歌(岡山県)などを披露しました。中国は扇子の舞や被服学生のファッションショー、琴の演奏などの披露があり、特に印象に残ったのは、自分達で制作した伝統的な衣装をまとった被服学生のステージでした。優雅なダンスが素晴らしかったです。

3日目～6日目は景德鎮市に滞在しました。出発前の市長表敬訪問の際に大西市長から、景德鎮は中国を代表する陶磁器の名窯とお聞きしていた通り、国内外から多くの観光客が訪れていました。私たちは、歴史ある窯を見学し、美術館で陶磁器の歴史を学び、絵付けの体験をしました。街全体が陶磁器を大切にしており、街灯に陶器が使用されており、ほっと灯った様が美しかったです。

食事は毎食準備していただき、上海料理に近い香辛料の効いた料理が多かったです。初めて見る料理ばかりでしたが、食べてみるとどれも美味しく、食事を通して現地の生活を感じることができました。『郷に入っては郷に従え』と言いますが、旅先で現地の料理を食べることは最も取り組みやすい国際理解になると思いました。

今回の中国訪問で一番驚いたことは、両替していった人民元が現地ではほぼ使えなかったことです。中国では日本以上に電子決済が浸透しており、お釣りの用意がない店舗が多くありました。またVISAなどのクレジットカードも使用できない所が多く、中国系のAlipayやWeChat Payが主流とのことでした。私は訪問途中で急遽Alipayを登録して事なきを得ましたが、中国訪問前に登録しておけば良かったと後悔しました。(クレジットカードの紐づけに手こずりました。)現地の人と同じ方法で支払いをすることで、親近感が湧き、店員さんとの会話も楽しめるようになりました。

初めて訪れた中国は、訪問前に持っていたイメージよりはるかに都会的でした。空港やホテル、訪れた景德鎮陶瓷博物館、アーティストスタジオなど洗練されたデザインの建物が多く、かつ伝統的な建物とも調和しており興味深かったです。中国語の発音は難しく片言での会話でしたが、現地の言葉で交流すると心の距離が近くなったように感じました。

・・

今回の訪問で体調不良を含め大きなトラブルなく過ごすことができたのは、高松市都市交流室・高松市国際交流協会・南昌市の関係各所の皆さまのお力添えの御かげだと思います。特別な経験をさせていただき、ありがとうございました。

